

【R4薬用作物産地支援 栽培技術研修】

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道	9月15日(木)～16日(金)	名寄駅前 (JR北海道)	駅前交流プラザ よろーな (名寄市)	薬用植物資源研究センター 士別市農家ハトムギほ場
東北・関東・北陸	10月6日(木)～7日(金)	大曲駅前 (JR東日本)	名水市場 湧太郎 (秋田県美郷町)	秋田県美郷町
東海・近畿	10月17日(月)～18日(火)	白子駅前 (近鉄名古屋線)	三重県農業研究所茶業・花 植木研究室 花植木研究課 (鈴鹿市) 三重県教育文化会館 (津市)	有限会社イトウグリーン管理 圃場 (鈴鹿市)
中国・四国	9月7日(水)～8日(木)	観音寺駅前 (JR四国)	観音寺市民会館 (香川県観音寺市)	三豊薬草園 (観音寺市)
九州	11月17日(木)～18日(金)	宇美駅前 (JR九州)	し～ず・うみ (福岡県宇美町)	宇美町薬用作物生産部会 管理圃場

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスでの移動を基本とします

※ 以下の各研修プログラムは内容を一部変更することがあります。

薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 15名

研修実施場所： 駅前交流プラザ よろーな 会議室3（北海道名寄市東1条南7丁目1-10）

実施時期： 9月15日(木)～16日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月15日 (木)	13:10-13:30 (20分)	13:20現地集合 場所：名寄駅 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:00 (90分)	[講義・現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	「国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター北海道研究部」における現地研修で、薬用作物の特徴、種子・種苗の供給、品質評価、研究開発の状況等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	林 茂樹 ほか	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 北海道研究部
	15:00-15:40 (40分)	移動(バス利用) →士別市		事務局	
	15:40-16:10 (30分)	[現地研修]	薬用ハトムギ「北のはと」（薬用植物資源研究センター 品種登録，国産生薬(株)との契約栽培）の生育状況を見学	村中 吉宏 林 茂樹 白井 清太	合同会社 むらなか 薬用植物資源研究センター 国産生薬株式会社
	16:10-16:40 (30分)	移動(バス利用) →名寄駅前	初日解散	事務局	
9月16日 (金)	9:00-10:00 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	調整中	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	10:10-11:20 (70分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について (仮題)	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する（カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等）	林 茂樹	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 北海道研究リーダー
	11:30-12:00 (30分)	[講義] 道北におけるハトムギ生産・加工・販売の取り組みについて (仮題)	国産生薬(株)は日本産薬用農産物の契約栽培の買取主体であり、それらの契約販売を生業としている。ハトムギ品種「北のはと」の利用権許諾を受け、この品種を主体とした生産・加工・販売の取り組みを紹介する。	白井 清太	国産生薬株式会社 代表取締役社長
	12:00-13:00	昼食			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東北会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 名水市場湧太郎 國之誉ホール（秋田県仙北郡美郷町六郷馬町83）
 実施時期： 10月6日(木)～7日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月6日 (木)	13:10-13:40 (30分)	13:00現地集合 場所：大曲駅前（JR東日本） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:00 (80分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	美郷町（東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結）の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	佐藤 博昭	美郷町農政課 農業振興班
	15:00-15:30 (30分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	15:45-16:45 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	調整中	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	17:00-17:20 (20分)	移動(バス利用希望者) 研修会場→大曲駅			
10月7日 (金)	8:40-9:10 (30分)	移動(バス利用希望者) 大曲駅→研修会場			
	9:30-10:50 (80分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について（仮題）	東京生薬協会が支援している薬用植物国内栽培事業の東北地域における取り組み事例をもとに、栽培作業の基本から、地域特有の条件に合わせた品目の絞り込み、栽培技術等を解説する。	和田 浩志	東京生薬協会栽培指導員
	11:00-12:00 (60分)	[講義] 美郷町における薬用作物生産の取り組みについて（仮題）	美郷町における薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みについて、産地作りのきっかけから現状と課題、今後の展望を紹介する。	佐藤 博昭	美郷町農政課 農業振興班
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
15:15-15:40 (25分)	移動(バス利用希望者) 研修会場→大曲駅				

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 15名

研修実施場所： 初日：三重県農業研究所茶業・花植木研究室 花植木研究課（鈴鹿市高塚町新林1619-1）
2日目：三重県教育文化会館（三重県津市桜橋2-142）第2会議室

実施時期： 10月17日(月)～18日(火)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月17日 (月)	13:00-13:40 (40分)	13:00現地集合 場所：白子駅前 (近鉄名古屋線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:00 (80分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	三重県鈴鹿市 有限会社イトウグリーンの管理圃場（シャクヤク、トウキ）における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	伊藤 哲男	有限会社イトウグリーン 代表取締役
	15:00-15:15 (15分)	移動(バス利用) →研修会場（三重県農業研究所 花植木研究課（鈴鹿））		事務局	
	15:20-16:20 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	調整中	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	16:30-17:10 (40分)	移動(バス利用) →津駅		事務局	
10月18日 (火)	9:00-10:00 (60分)	[講義] 薬用作物の栽培技術（仮題）	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。（ミシマサイコ、シャクヤク、ジュウヤク、トウキ等）	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	10:10-11:20 (70分)	[講義] 三重県鈴鹿地域における薬用作物栽培の取り組み（仮題）	三重県鈴鹿地域における薬用作物栽培（シャクヤク、トウキ等）の取り組みについて紹介する。	加藤 宏明 伊藤 哲男 小林 泰子	伊勢くすり本舗代表取締役 有限会社イトウグリーン代表取締役 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課 主幹研究員兼課長
	11:30-12:00 (30分)	[講義] カノコソウの栽培について（仮題）	九鬼産業では三重県の事業により薬草栽培を実施している。カノコソウの栽培についての自社の取り組みを紹介する。	大岩 優貴	九鬼産業株式会社 開発部
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 中国・四国会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 観音寺市民会館（香川県観音寺市観音寺町甲1186-2） 会議室7
 実施時期： 9月7日(水)～9月8日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月7日 (水)	13:20-13:45 (25分)	13:00現地集合 場所：観音寺駅前（JR四国予讃線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:45-15:15 (90分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物栽培について	三豊薬草園（みとよ やくそうえん）における現地研修で、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	田中 照男	三豊薬草園
	15:15-15:45 (30分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:00-17:00 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	調整中	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
9月8日 (木)	9:00-10:10 (70分)	〔講義〕 薬用作物の栽培法と調製法について（仮題）	ミシマサイコの栽培法及びミシマサイコ、トウキ、シャクヤクの調製法について、実際の生薬サンプルを示しながら解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:20-10:50 (30分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」について（仮題）	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質な産品を低コストで安定的に栽培・収穫し、複合経営モデルを実証することを目的とした当該プロジェクト研究が昨年度完了した事を受け、得られた成果について解説する。	矢野 孝喜	農研機構西日本農業研究センター 中山間畑作園芸研究領域 施設園芸グループ 主任研究員
	11:00-12:00 (60分)	〔講義〕 山口県における薬用作物栽培の取り組みについて（仮題）	山口県における薬用作物栽培の取り組みについて、上記プロジェクトに参画して得られた成果も併せ紹介する。	安永 真	山口県農林総合技術センター 農業技術部 園芸作物研究室 果樹栽培グループ 専門研究員
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： し〜ず・うみ（福岡県糟屋郡宇美町平和1丁目14-1）
 実施時期： 11月17日(木)～18日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月17日 (木)	13:00-13:40 (40分)	12:50現地集合 場所：宇美駅前 (JR九州香椎線) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:00 (80分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	宇美町薬用作物生産部会の管理圃場における現地研修で、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	藤木 匠	宇美町薬用作物生産部会 会長
	15:00-15:40 (40分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	15:50-16:50 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	調整中	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	17:00-17:10 (10分)	移動(バス利用希望者) 研修会場→宇美駅			
11月18日 (金)	9:10-9:20 (10分)	移動(バス利用希望者) 宇美駅→研修会場			
	9:30-10:20 (50分)	〔講義〕 薬用作物の栽培法と調製法について	ミシマサイコの栽培法及びミシマサイコ、トウキ、シャクヤクの調製法について、実際の生薬サンプルを示しながら解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員
	10:25-11:25 (60分)	〔講義〕 薬用作物産地化の必要性和各薬用植物の栽培方法について	薬用作物の産地化方法について、成功・失敗事例を踏まえて解説する。	渥美 聡孝	九州保健福祉大学 薬学部 薬学科 准教授
	11:30-12:00 (30分)	〔講義〕 宇美町における薬用作物生産の取り組みについて（仮題）	宇美町における薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みについて、産地作りのきっかけから現状と課題、今後の展望を紹介する。	調整中	宇美町薬用作物生産部会
	12:00-13:00	昼休み			
	13:00-14:30 (90分)	〔情報交流会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	